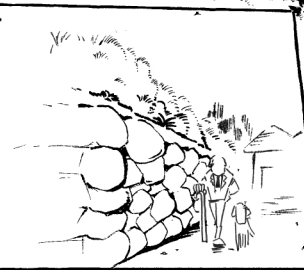
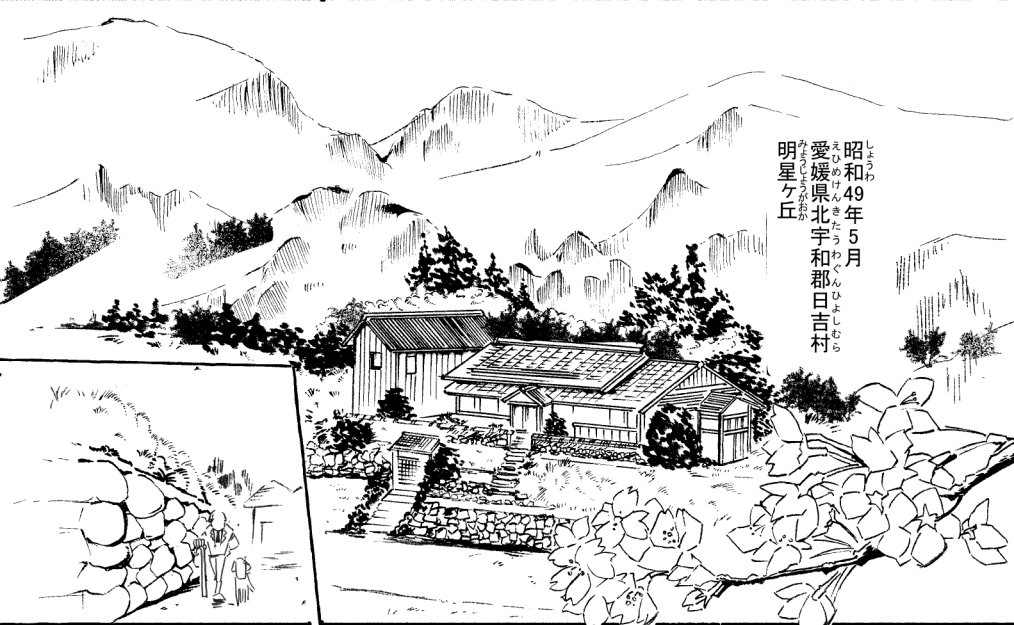


昭和49年5月
愛媛県北宇和郡日吉村
明星ヶ丘

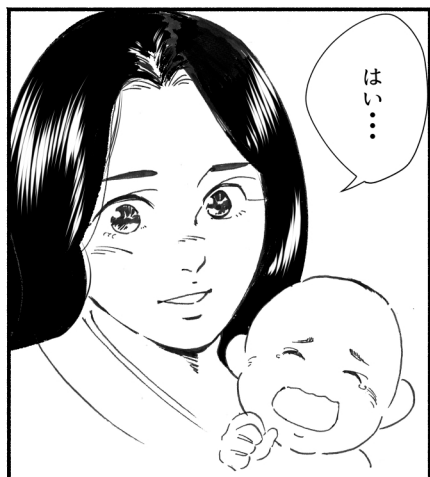
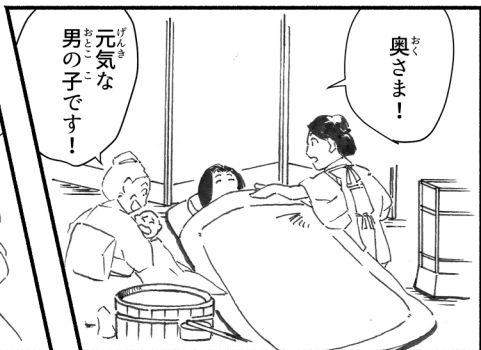
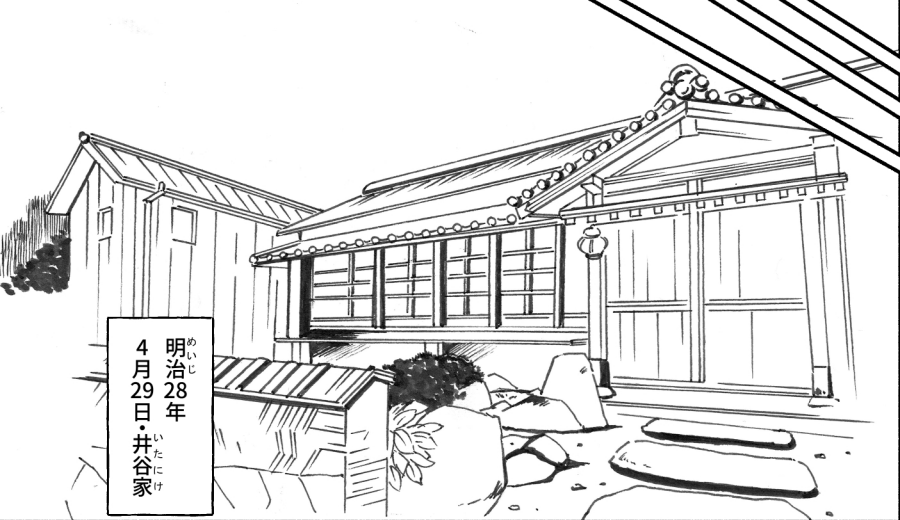



井谷正命先生顕徳碑

そんな父の
偉大な背中を追い続ける
人生だった…




幼い頃は父を恐れ、
青年期は父に反抗した…

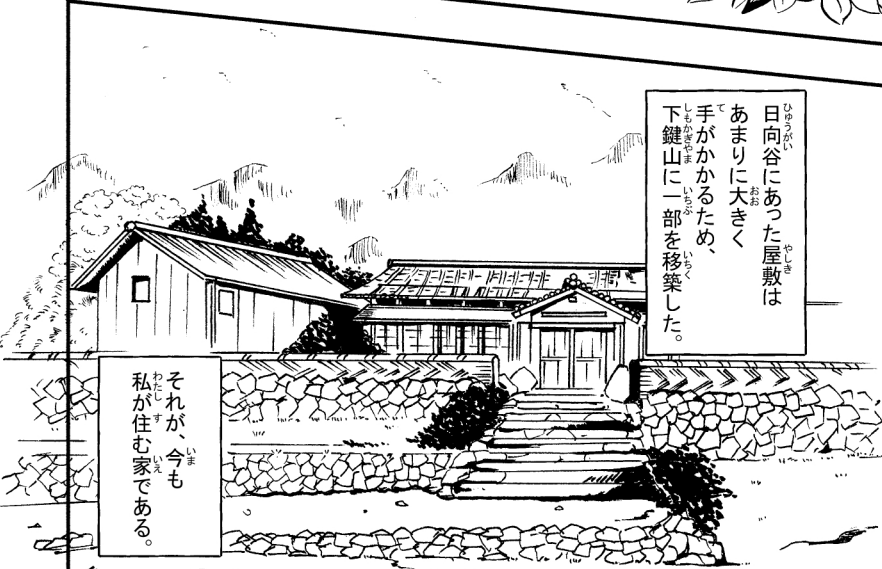




私は父・正命と
母・和香栄との間に
長男として生まれた。

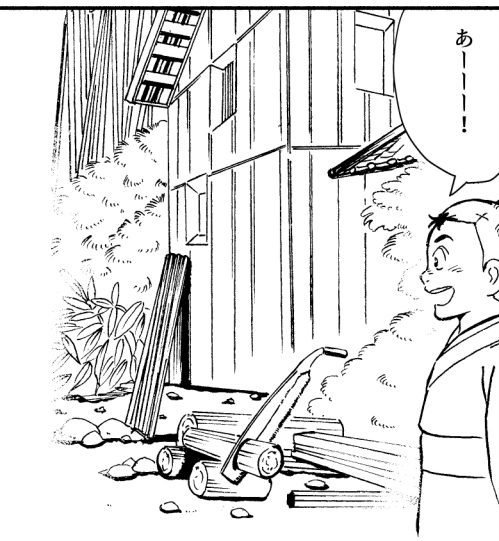
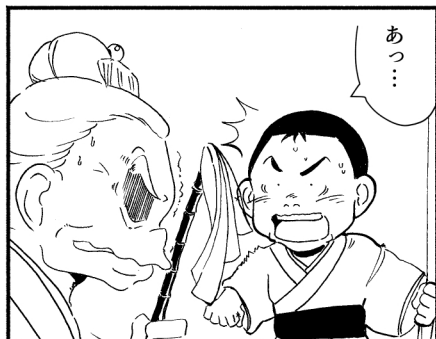


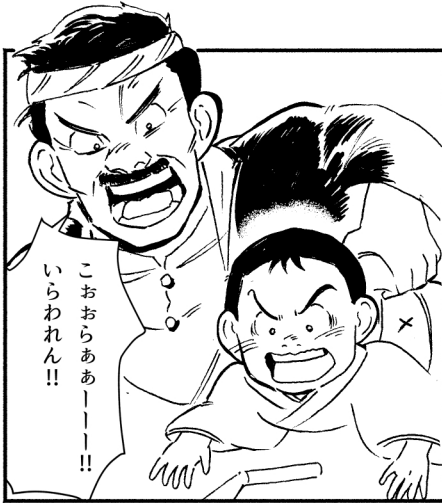
井谷家は、
江戸時代から
代々庄屋を
務めてきた。



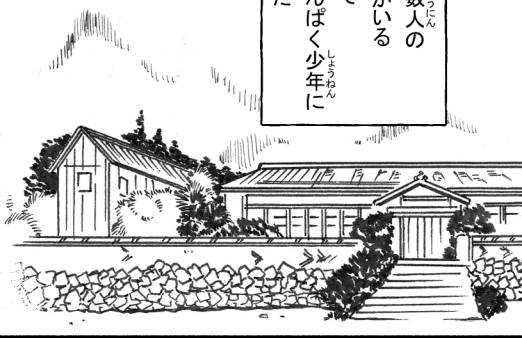
日向谷にあった屋敷は
あまりに大きく
手がかるため、
下鍵山に一部を移築した。

それが、今も
私が住む家である。





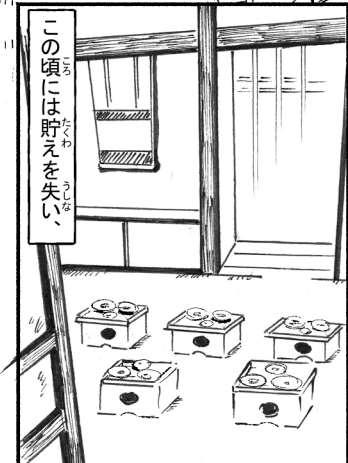
家族と数人の奉公人がいる家の中で私はわんぱく少年に成長した



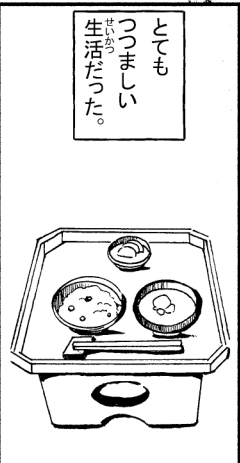
うちは村を代表する旧家だったが



この頃には貯えを失い、



とてもつましい生活だった。



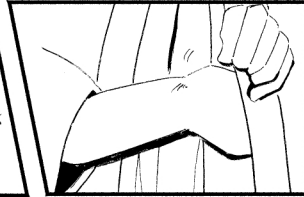
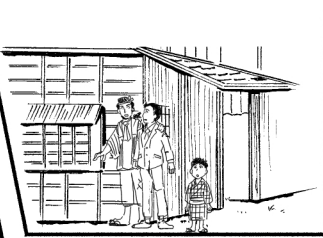
なぜならば、父が井谷家の財産を村のために使ったからだ。







これお札に、
少ないですが…



先生、
ちよつと…



子供のために
使ってあげなさい。

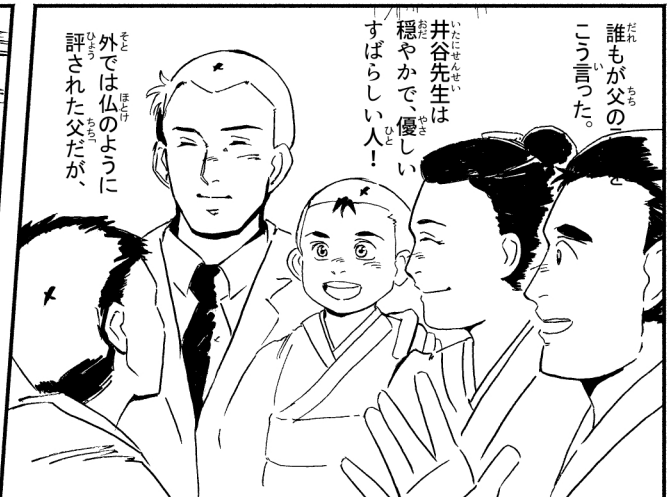
政治家に
渡すような
金があるなら、



こんなこと
するもんじゃ
ない！



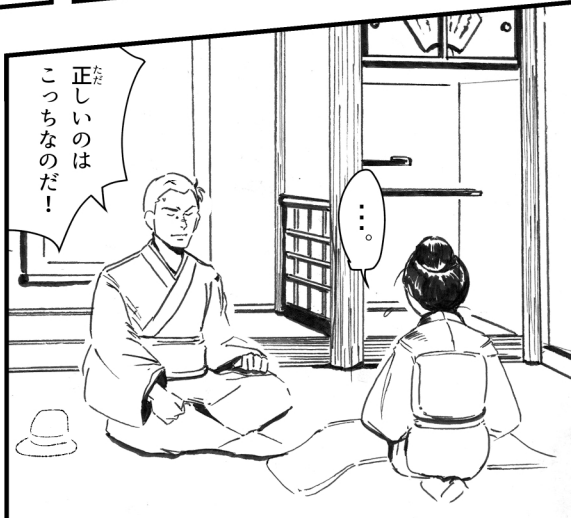
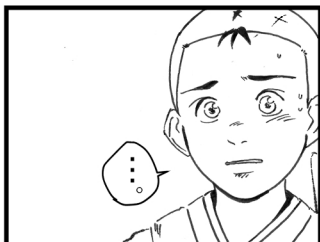
家では
違う一面も見せた。

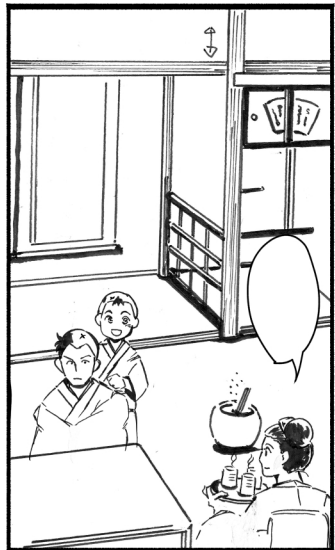
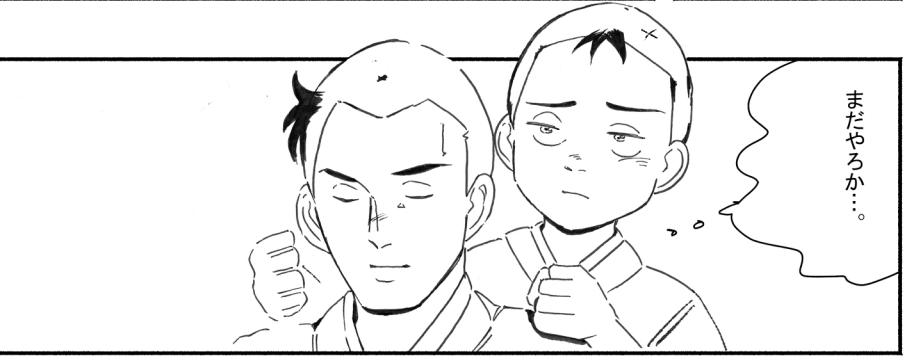
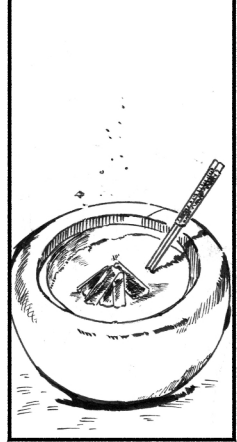
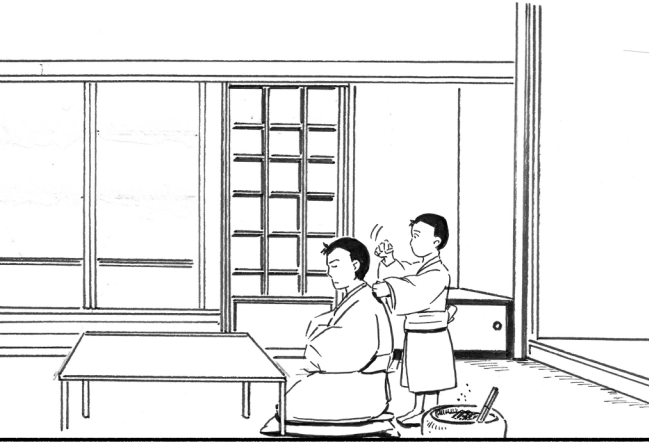


外では仏のように
評された父だが、

井谷先生は
穏やかで、優しい
すばらしい人！

誰もが父の
こう言った。



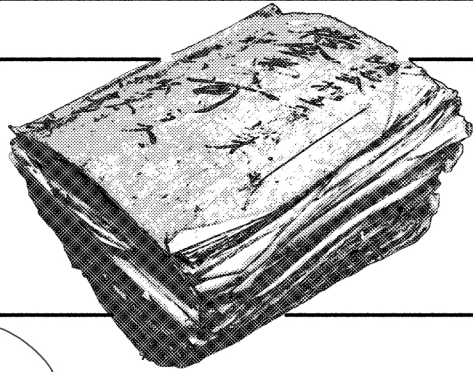




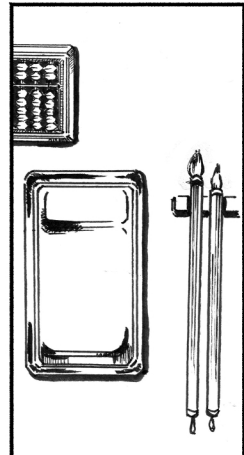
旦那様。
米の出来ですが…

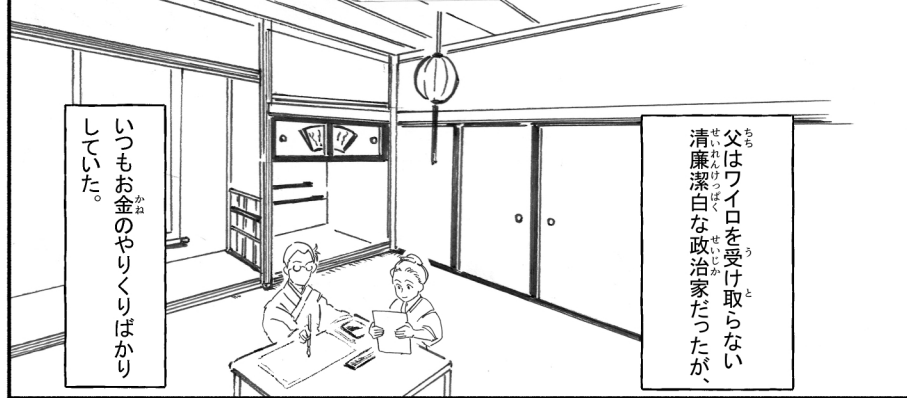
同じ人間じゃのに。
なんで小作人はこがいに
立場が弱いんやろう…？





「明治貳拾伍季以来
借金為ス可ラス
ト知りツ、出来タ
遣り繰り書類」
(意味…
明治25年から
借金はいけないと
分かっているながら
出来たやり繰りの書類)





いつもお金のやりくりばかりしていた。

父はワイロを受け取らない
清廉潔白な政治家だったが、



「借銭の棒が追々長くなり
ふり廻されぬ年の暮れかな」

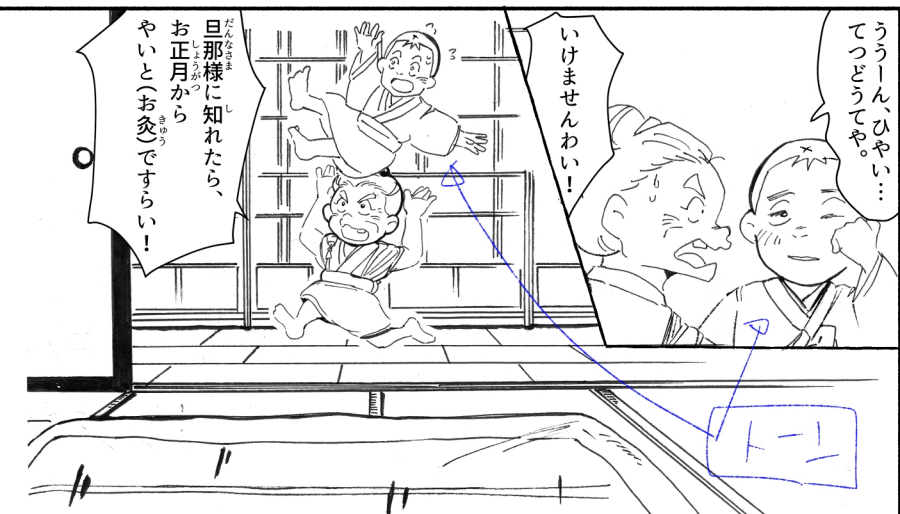
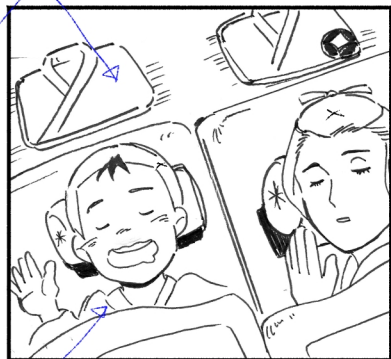
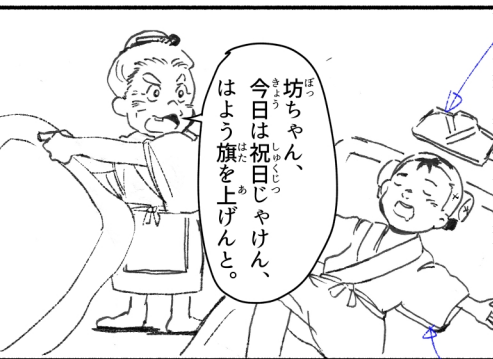
「借銭の棒にその身をたたか
きてん気にして振り回すべし」

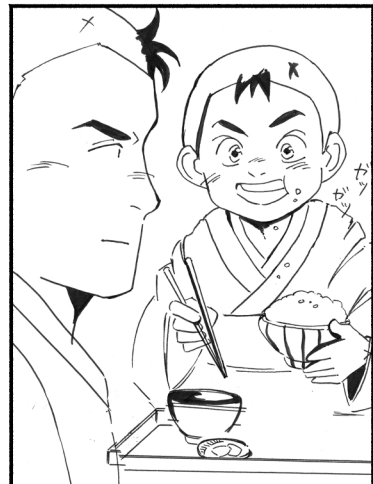
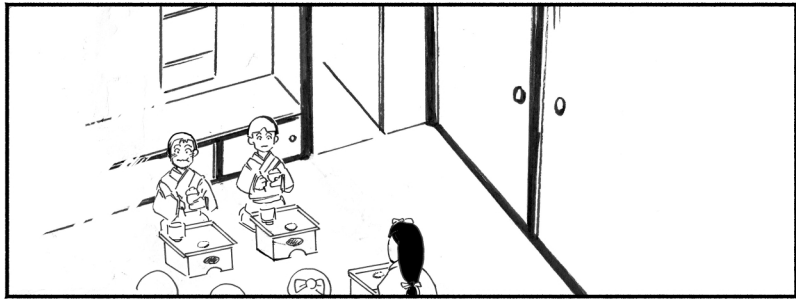
父が残した借用証書の綴りは
厚さが約50cm、
増えるばかりの借金を
笑い飛ばすような
洒落款を表紙裏に残している。

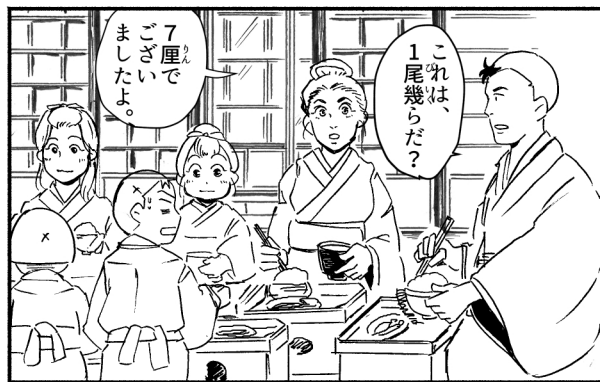
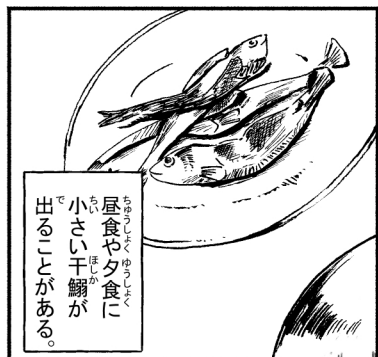


さらに数学は最も得意とする、
学問も教養もある人だった。

また父は和歌や漢詩、
歴史の知識が深く、







そくち
即答できないと飯はお預けで、
まらちが
間違うと頭を叩かれた。
わたししくじ
私は食事の時間が恐ろしく、
ちち
父がいない時は嬉しかった。

まさとし
正吉の膳を
ささ
下げなさい！

